

○本市教育振興基本計画策定にかかる市民アンケート結果について

本市教育振興計画の策定にあたり、市民アンケートを行っています。生涯学習に関連する箇所を下記に掲載します。

I 調査の目的

現行の酒田市教育振興基本計画後期計画（平成27年度策定）の後継となる新たな教育振興計画を策定するに当たり、市民を始め幅広く意見を聴取し、新たな計画に反映させる。

II 調査対象・方法

酒田市在住の市民、児童生徒、教員に対してアンケート調査を実施。

III 調査内容

＜市民＞ 学校教育、家庭教育・地域教育、生涯学習

＜児童生徒＞ 学校、読書、家庭、地域・酒田市

＜教員＞ 勤務状況、学校教育

IV 調査時期

平成30年12月

V 調査実施機関

酒田市教育委員会及び株式会社東京商工リサーチ

VI 調査報告書の読み方及び注意事項

○図表中の構成比率は、小数点第2位以下を四捨五入している関係で、必ずしも100.0%とはならないことがある。

○複数回答の設問は回答が2つ以上ありうるため、合計は100%を超えることもある。

○図表中の「N」とは回答件数の総数のことで、100%が何件の回答に相当するかを示す比率算出の基数である。

○単一回答のグラフについては、円、帯、または棒グラフとし、複数回答のグラフについては棒グラフとしている。

○統計上の有意性に鑑みて、各属性の回答件数が5件未満のものについては、原則としてコメントしない。各種数値は参考程度とされたい。

【調査結果】

I 市民向け調査

1 調査のあらまし

(1) 調査対象者

酒田市教育委員会が10代100名・20～70代各200名となるよう無作為に抽出した酒田市在住の16歳以上男女計1,300名

(2) 調査の方法

調査対象者に対して郵送形式によるアンケート調査を実施した。

(3) アンケート調査の内容

学校教育について

家庭教育・地域教育について

生涯学習について

(4) 調査の期間

平成 30 年 12 月 12 日～12 月 28 日

(5) 回収結果

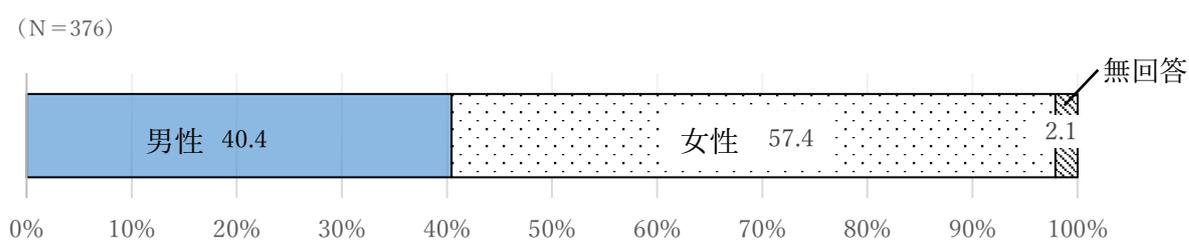
調査対象件数	1,300 件
有効回答数	376 件
有効回答率	28.9%

2 回答者の属性

(1) 男女別

問 1 あなたの性別はどちらですか。(○は1つ)

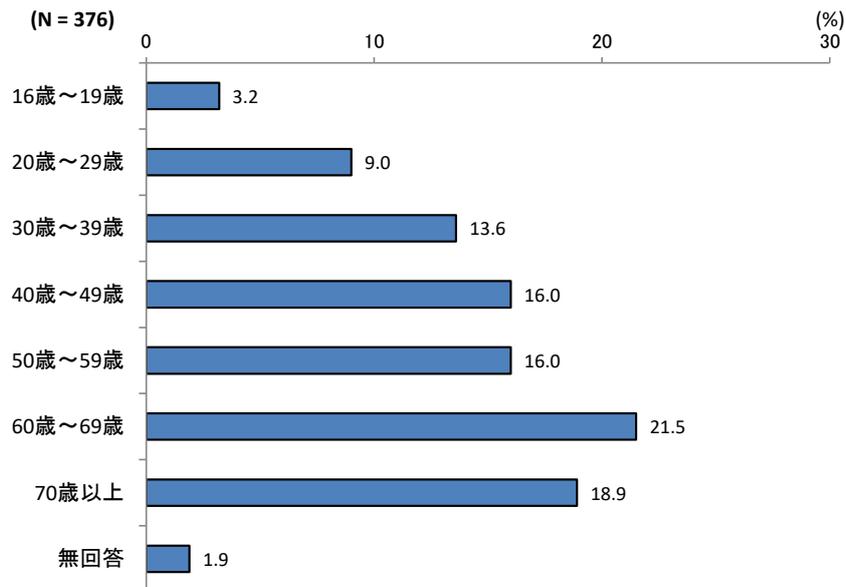
性別では、「男性」が 40.4%、「女性」が 57.4%となっている。



(2) 年代別

問2 あなたは何歳ですか。(〇は1つ)

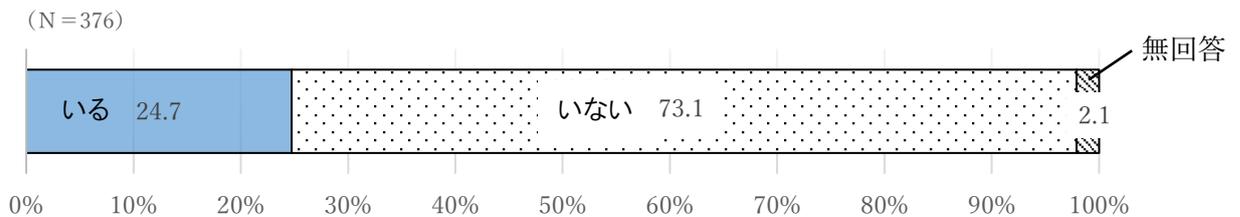
年代別では、「60歳～69歳」が21.5%と最も高く、次いで「70歳以上」が18.9%、「40歳～49歳」「50歳～59歳」がそれぞれ16.0%となっている。



(3) 高校生以下の子どもの有無

問3 あなたに、高校生以下のお子さんはいますか。(〇は1つ)

高校生以下の子どもの有無については、「いる」が24.7%、「いない」が73.1%となっている。



3 アンケート調査結果 …… 生涯学習について

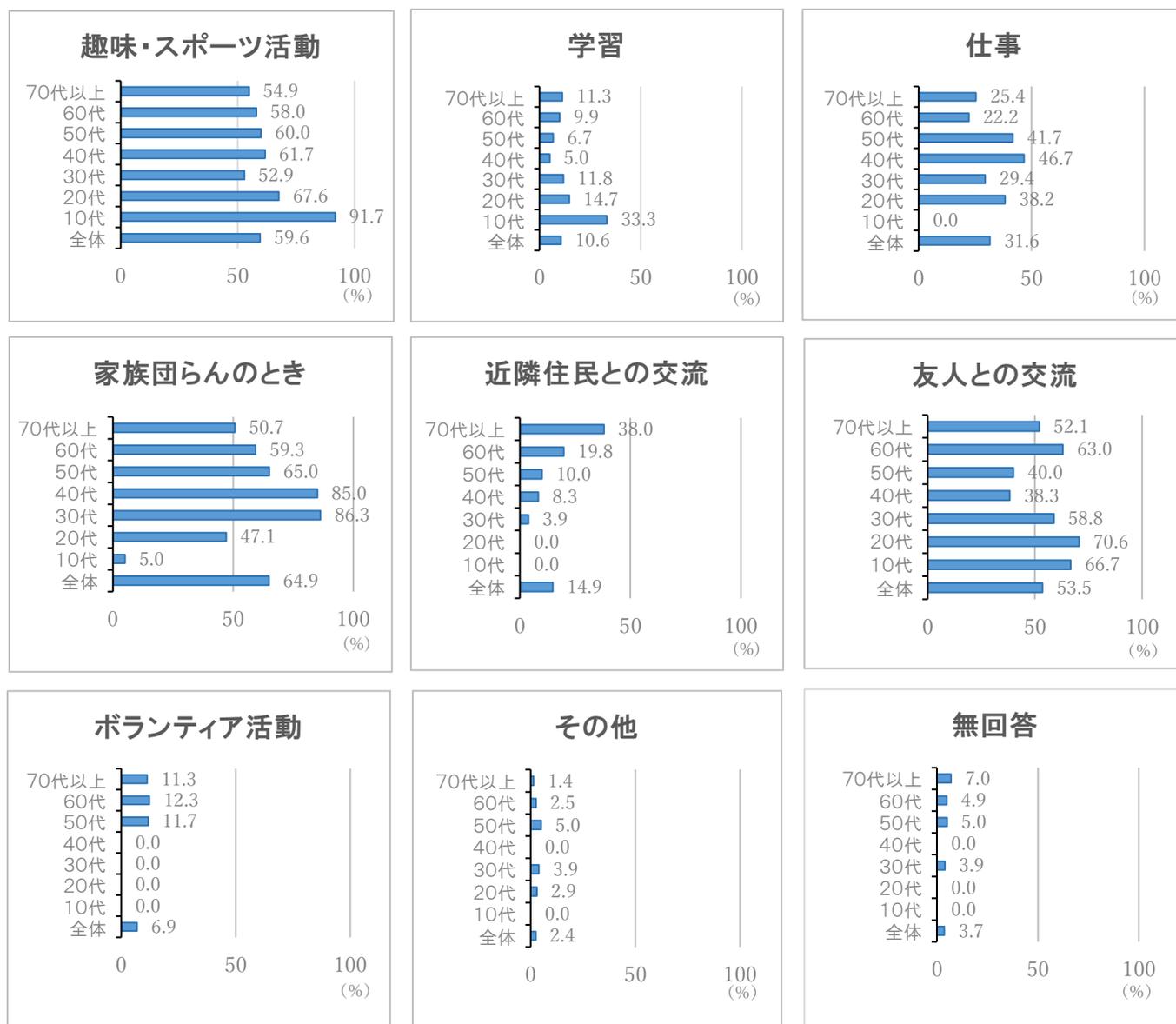
問17 あなたが、日頃の生活の中で幸せや生きがいを感じるのはどんなときですか。(〇は3つまで)

最も高いのは「家族団らんのとき」が 64.9%、次いで「趣味・スポーツ活動」が 59.6%、「友人との交流」が 53.5%となっている。

★計画のポイント

家族団らんの時間を大切に捉えている実態がうかがえます。引き続き、親子のふれあいに つながる事業や家庭教育に関連する事業を実施し、時間の確保に努めていきます。

(N=376)

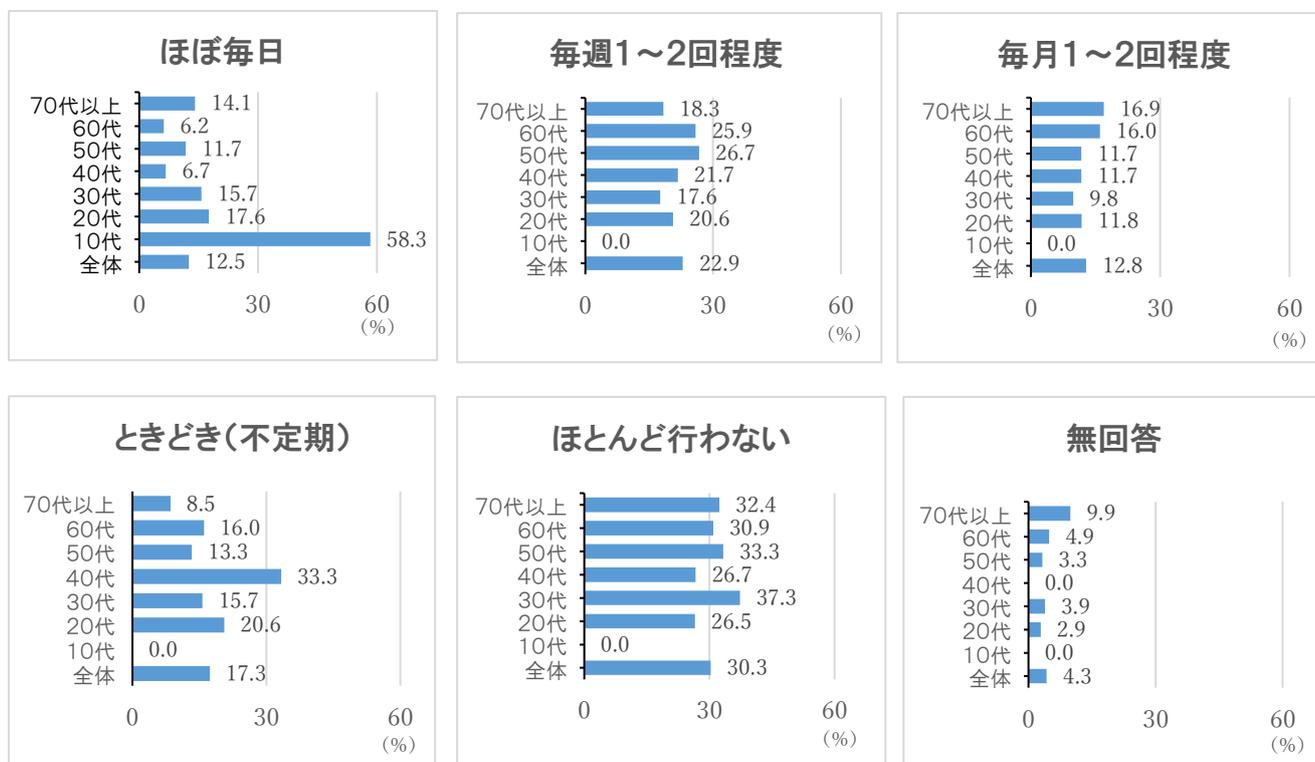


問 1 8 あなたは現在生涯学習の活動をどの程度行っていますか。（○は1つ）

全体では「ほぼ毎日」「毎週1～2回程度」「毎月1～2回程度」を合わせた『定期的に行っている』は48.2%、不定期な利用（「ときどき（不定期）」）を含めた『行っている』は65.5%に上った。「ほとんど行わない」は30.3%となっている。

年代別にみると10代で『定期的に行っている』は100.0%と高いほかは、20代及び50代以上で5割前後、30代～40代で4割余りとなっている。「ほとんど行わない」は10代を除く年代で2割半ば～3割半ばとなっており、最も高い30代で37.3%となっている。

(N=376)



★計画のポイント

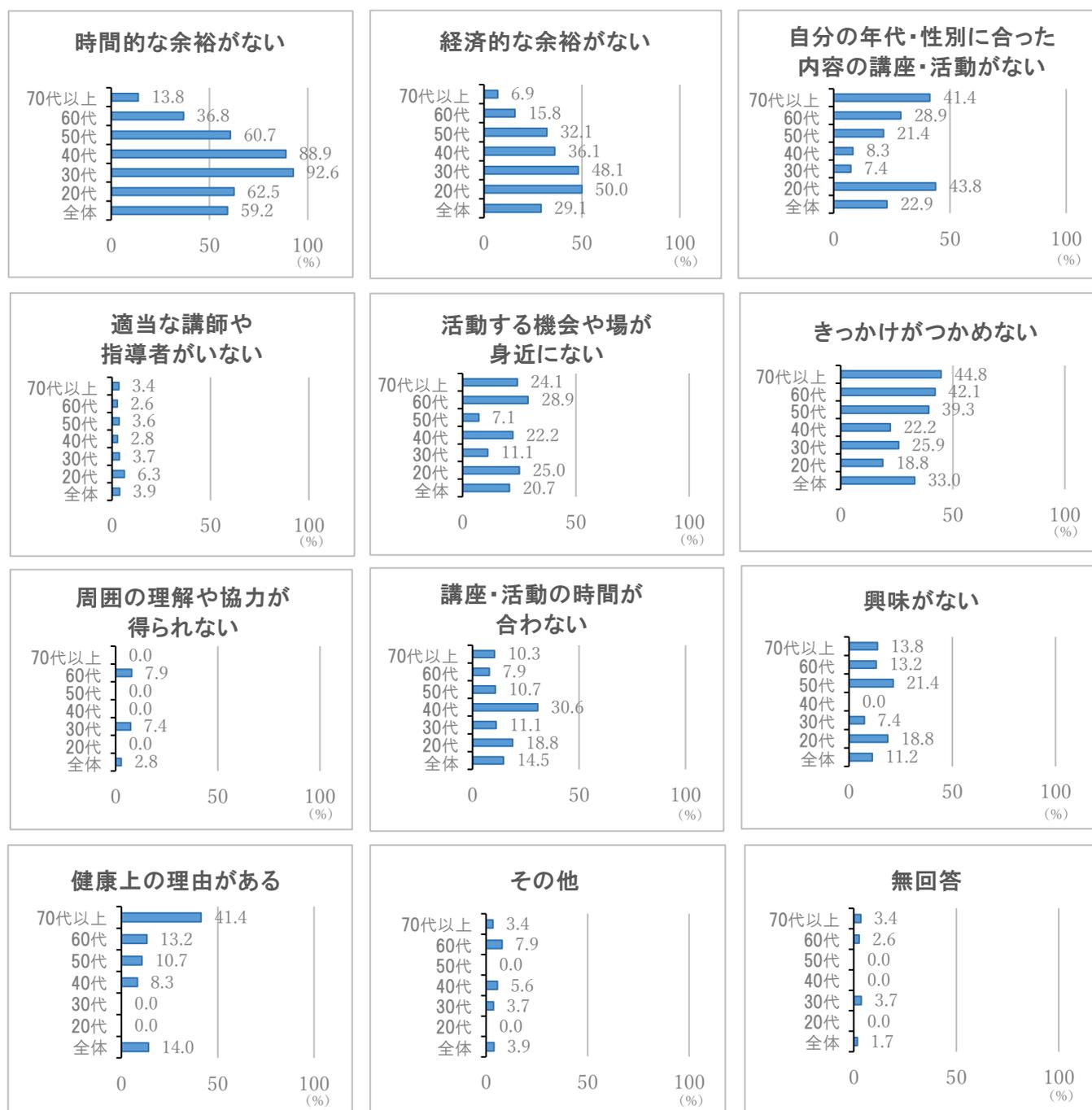
10代以外の年代の約3割は、生涯学習活動をほとんど行わないと回答しているため、これらの年代層が生涯学習を始めるきっかけにつながるような事業に取り組んでいきます。次の問19の課題解決にもつながると考えています。

問19 問18で「4. ときどき（不定期）」、「5. ほとんど行わない」と回答した方にお尋ねします。あなたが、生涯学習を行わない（行えない）主な理由は何ですか。（〇は3つまで）

最も高いのは「時間的な余裕がない」が59.2%、次いで「きっかけがつかめない」が33.0%、「経済的な余裕がない」が29.1%と続いている。

本設問には10代からの回答はなかった。

(N=179)



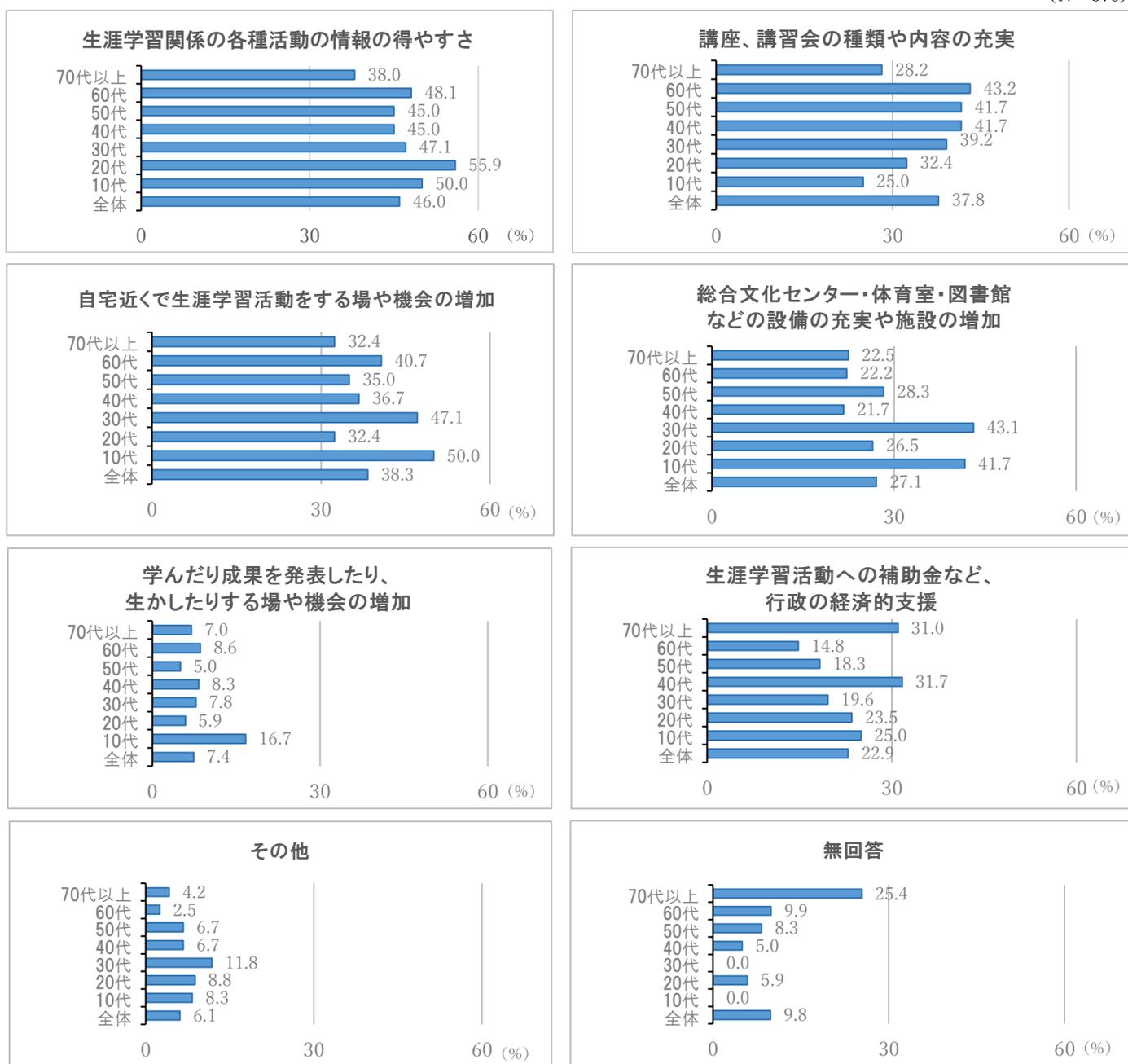
問20 あなたが、生涯学習の環境として望むことは何ですか。(〇はいくつでも)

最も高いのは「生涯学習関係の各種活動の情報の得やすさ」が46.0%、次いで「自宅近くで生涯学習活動をする場や機会の増加」が38.3%、「講座、講習会の種類や内容の充実」が37.8%と続いている。

★計画のポイント

生涯学習関係の各種活動の情報の得やすさについては課題15、自宅近くで生涯学習活動をする場や機会の増加については課題16、講座、講習会の種類や内容の充実については課題17として捉え、それぞれ課題解決に向けて取り組んでいきます。

(N=376)



問 2 1 あなたは、生涯学習活動を行った成果として、どのようなことを期待しますか。（〇はいくつでも）

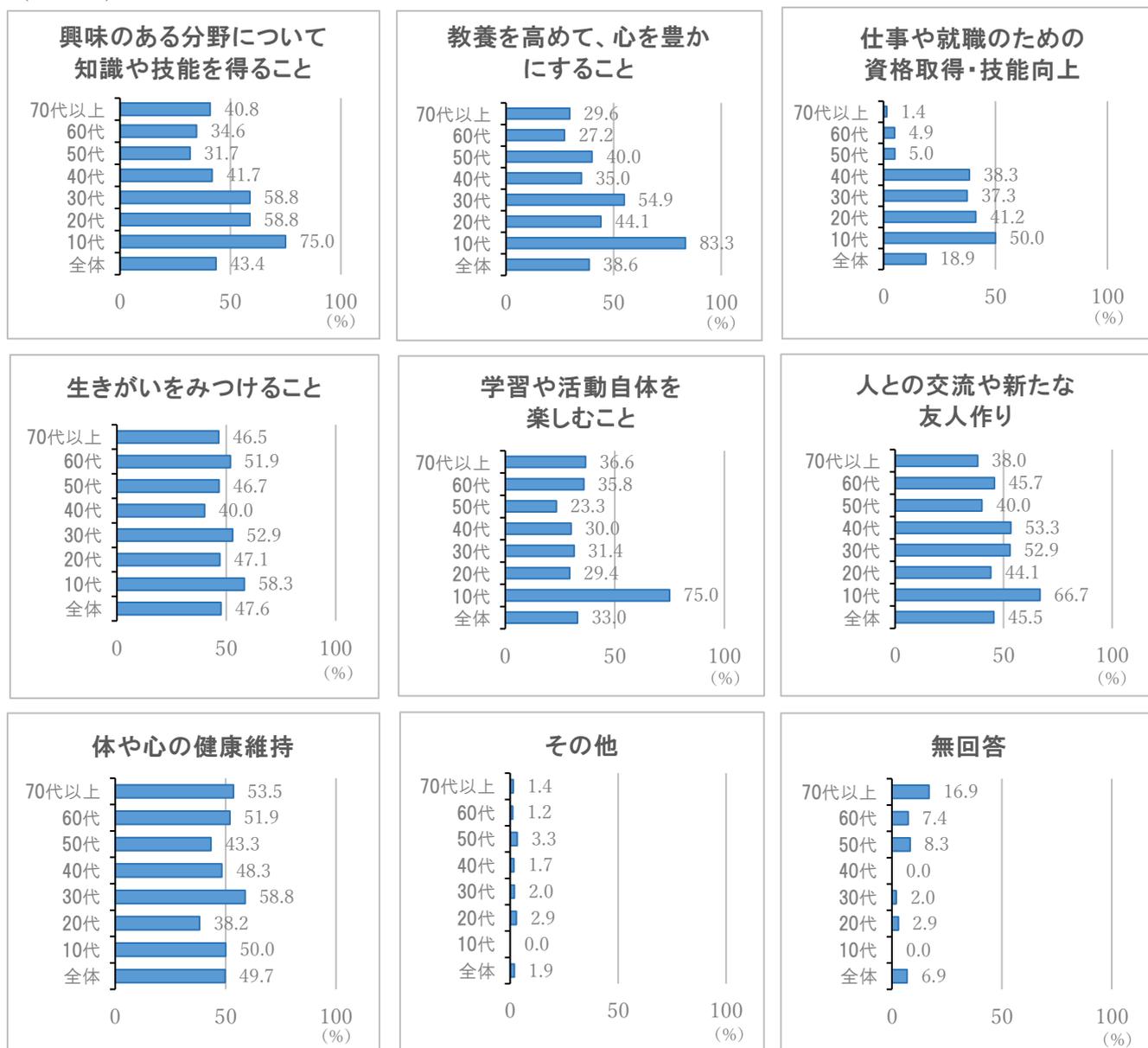
最も高いのは「体や心の健康維持」が49.7%、次いで「生きがいを見つけること」が47.6%、「人との交流や新たな友人づくり」が45.5%と続いている。

年代別にみるとほぼ全ての項目で10代の回答の割合が突出しているが、「体や心の健康維持」は30代が比較的高くなっている。

★計画のポイント

回答割合が比較的多かった、体や心の健康維持、生きがいを見つけること、人との交流や新たな友人づくりなどは、人生を豊かに過ごすためにどれも大切な事柄と考えられます。学びがそれらの充実につながるよう意識し事業を展開していきます。

(N=376)

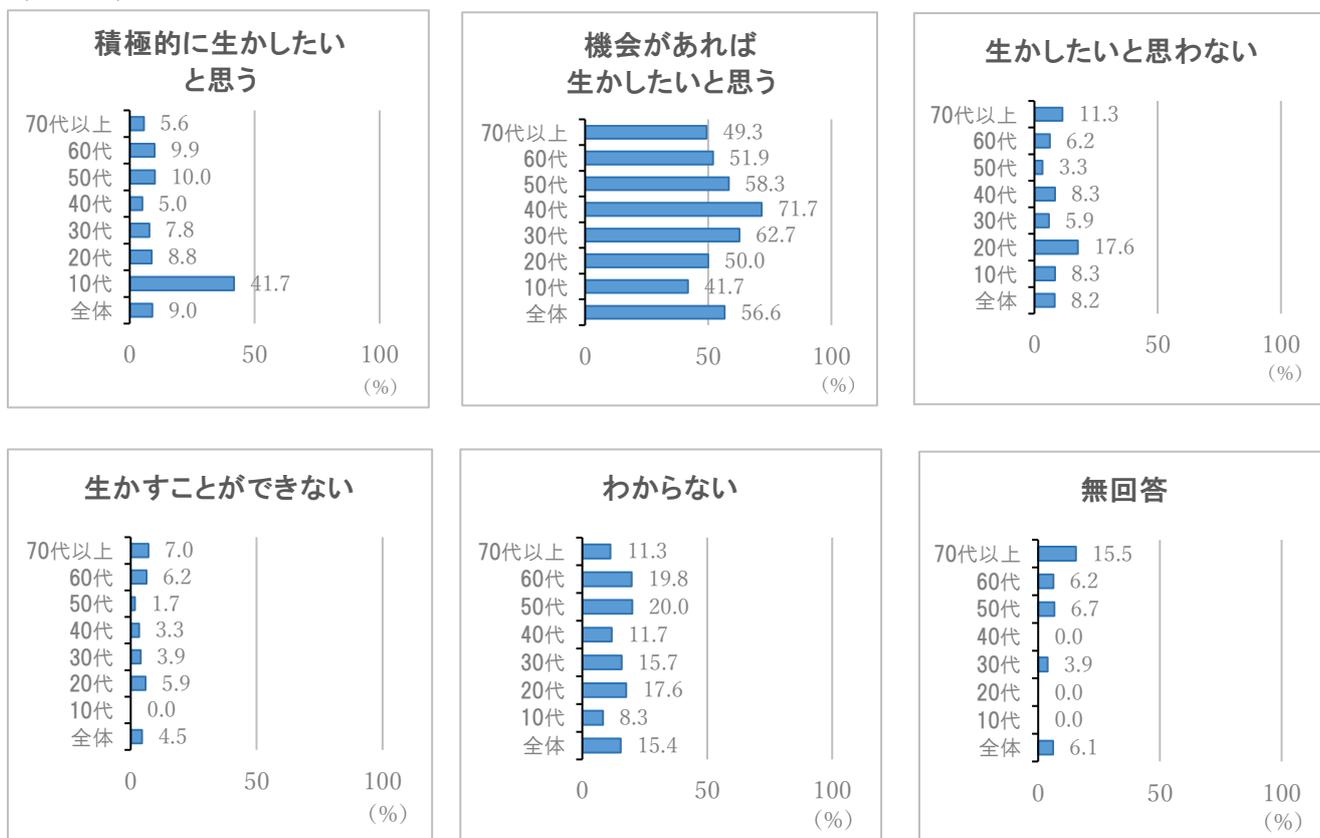


問22 生涯学習を行った場合、あなたは、その成果を地域・まちづくりで生かしていきたいと思いませんか。（〇は1つ）

全体では「積極的に生かしたいと思う」と「機会があれば生かしたいと思う」を合わせた『生かしたいと思う』は65.6%、「生かしたいと思わない」と「生かすことができない」を合わせた『生かしたいと思わない』は12.7%となっている。

年代別にみると10代で「積極的に生かしたいと思う」が41.7%と、他の年代に比べて高くなっている。

(N=376)



問23 あなたは、この1年間、下記の施設をどの程度利用しましたか。(〇は各項目1つずつ)

「毎週3回以上」「毎週1～2回程度」「毎月1～2回程度」を合わせた『定期的に利用している』について最も高いのは、「各地区コミュニティセンター」「図書館、各支所図書館」でそれぞれ10.1%、11.7%と1割を超えている。

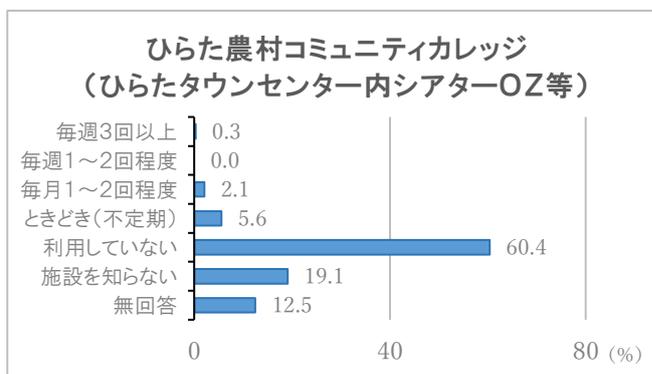
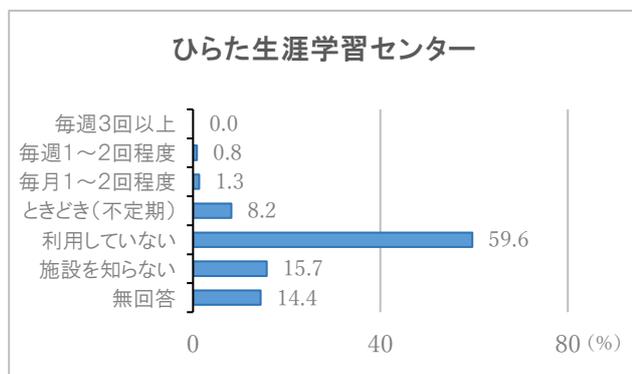
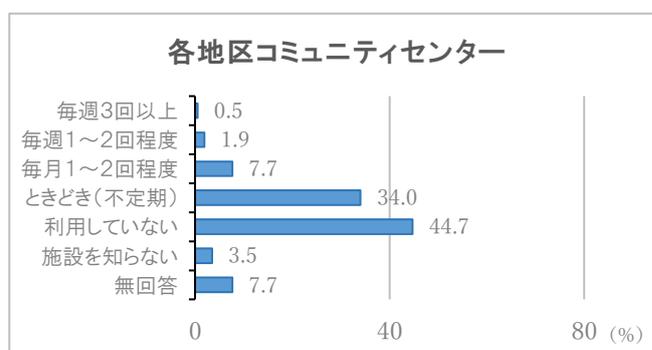
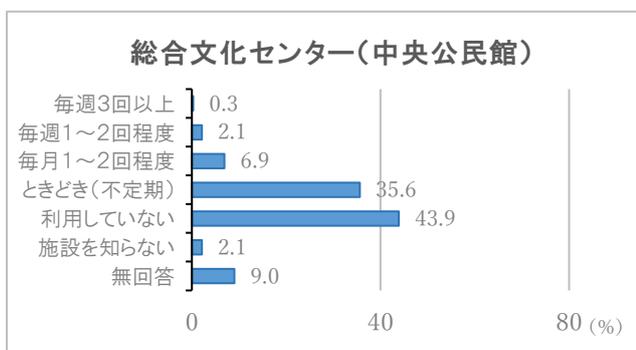
不定期的な利用(「ときどき(不定期)」)を含めた『利用している』でみると、「総合文化センター(中央公民館)」「各地区コミュニティセンター」でそれぞれ44.9%、44.1%と4割を超えている。

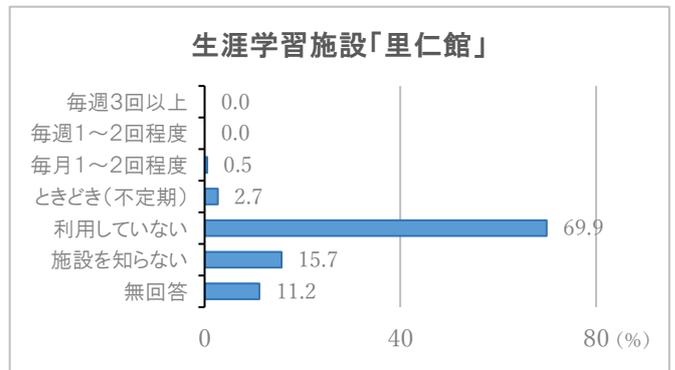
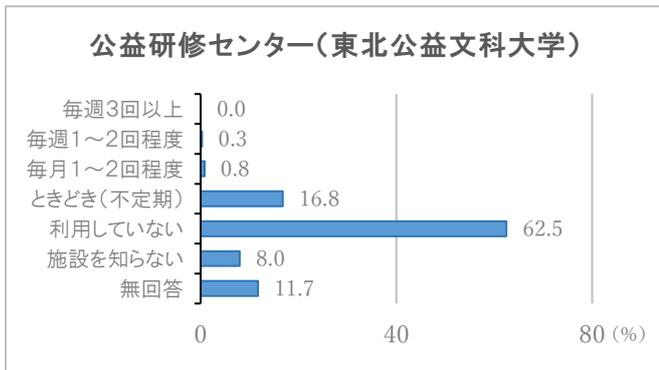
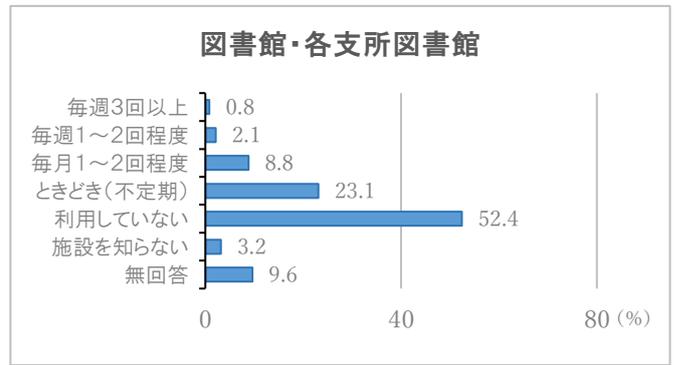
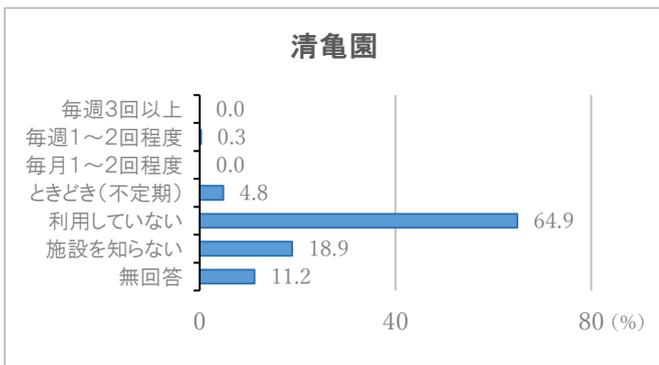
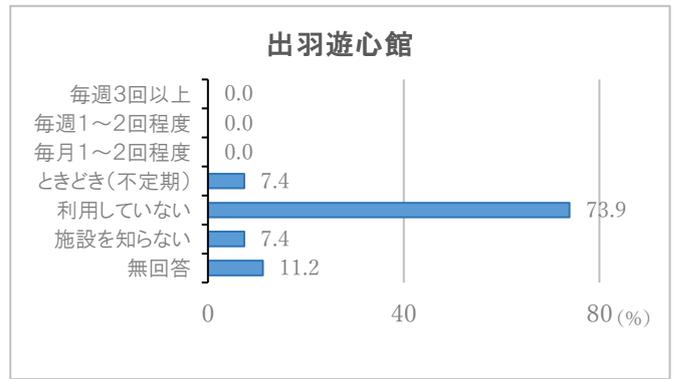
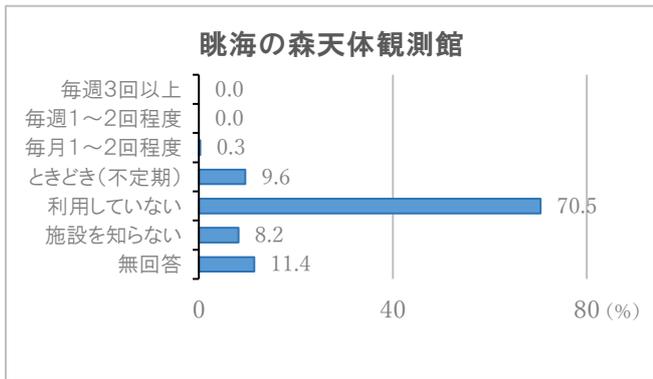
「利用していない」は「眺海の森天体観測館」「出羽遊心館」で7割を超え、「施設を知らない」は「ひらた農村コミュニティカレッジ(ひらたタウンセンター内シアターOZ等)」「清亀園」で2割近くに上った。

★計画のポイント

ひとくちに生涯学習関連施設といっても、利用されている施設と利用されていない施設、また、そもそも知られていない施設もあることがわかります。利用の少ない施設や知られていない施設の利用促進につながるような事業に取り組みます。

(N=376)



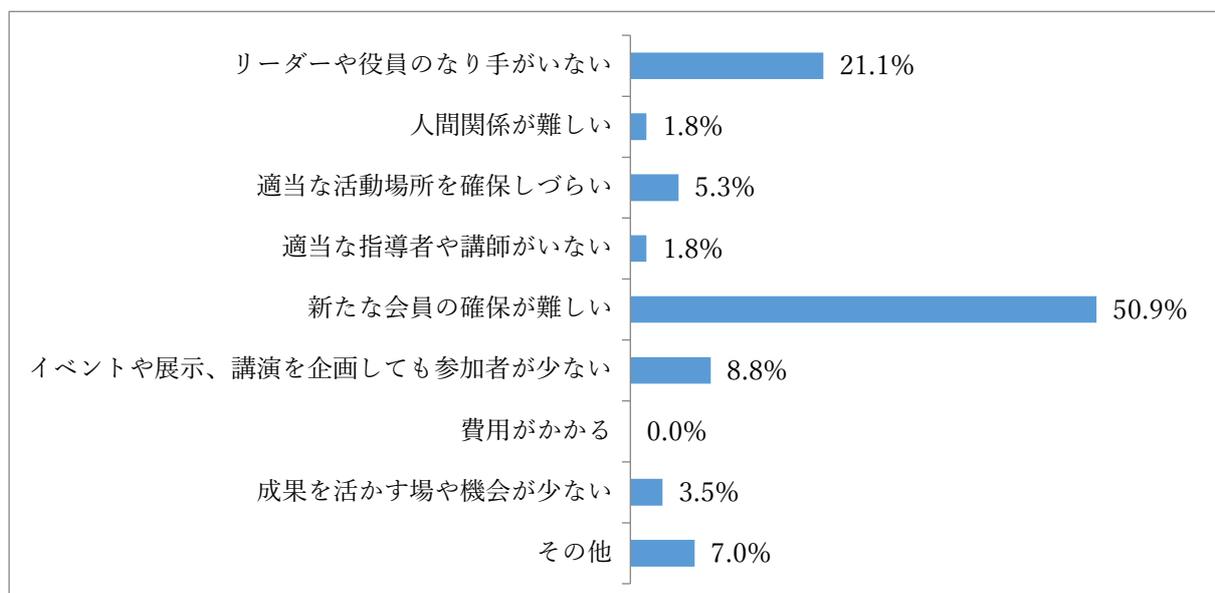


【各種サークル・団体等の生涯学習アンケート結果】

市内で活動する団体、サークルの現状と課題等を把握し、市民と行政が協働して本市の生涯学習を推進する施策の方向性を示す「酒田市生涯学習推進計画」の方針策定の資料とすることを目的として総合文化センターを利用するサークル等 46 団体に対してアンケートを実施。(回答数 45 団体、回答率 97.8%)

問1 「団体が抱える個々の課題」

・ 貴団体において抱えている問題点をお聞かせください。

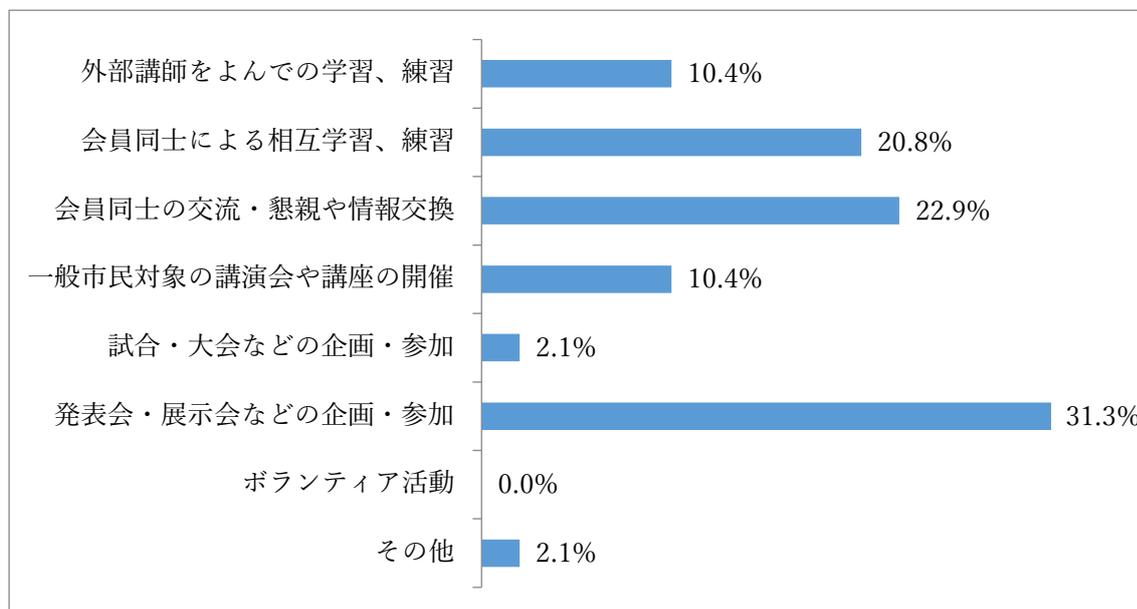


各団体が抱える問題点としては、「新たな会員の確保が難しい」が 50.9%と最も多く、続いて「リーダーや役員のなり手がいない」が 21.1%となっている。

その他の意見には「酒田ならではの工芸品を未来に残すための技術を講習したい」「高齢化が進み発表の場に出られない人が多い」「活動の継続について悩んでいる」などがあった。

問2 「団体同士の交流のあり方」

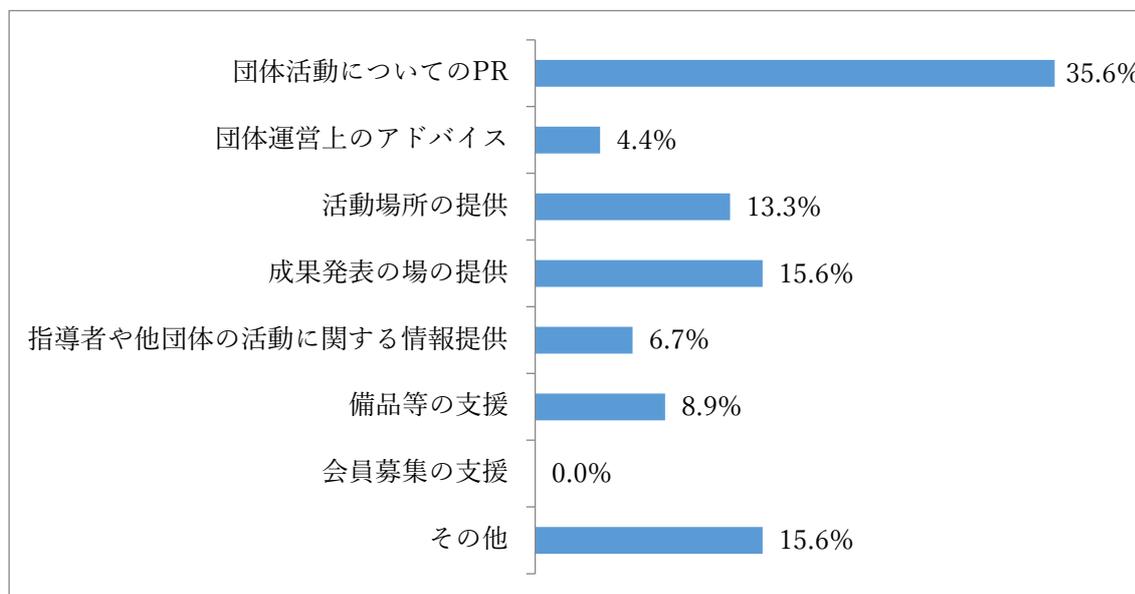
- ・ 貴団体が活動を続ける上で、一般市民や他団体とどのような交流を望みますか。



どのような交流を望むかについては、「発表会・展示会などの企画、参加」で 31.3%、次いで「会員同士の交流・懇親や情報交換」が 22.9%、「会員同士による相互学習、練習」が 20.8%となっている。

問3 「団体に対する行政支援のあり方」

- ・貴団体が活動する上で、行政からどんな支援があったらよいと思いますか。



各団体が活動する上で求める行政からの支援については、「団体活動についての PR」が最も多く 35.6%、次いで「成果発表の場の提供」が 15.6%、「活動場所の提供」13.3%となっている。

その他の意見「広報誌へ掲載してほしい」「季節ごとのイベント（正月の門松づくり、花）（クリスマス企画）（成人を迎える人のための企画）の実施」「車を運転できないため文化センターに行く事ができない」

※生涯学習推進計画の策定について、課題や方向性への意見

- ・発表の機会は励みになる。
- ・高齢化社会となり元気なシニアの掘り起こしが必要。団塊の世代をどう取り込むか。
- ・若い世代へ「酒田の宝」を知っていただくため、市主催で職人技を次代につなげる講座や工芸品フェアなどのイベントを希望したい。
- ・高齢化による会員の参加が少ないことが悩み。企画やPRの支援を行政にお願いしたい。
- ・学習は自らですが、行政には『学習の機会と情報提供、学習環境の整備』を望みます。
- ・行政が市民に学んでほしい内容（行政が必要な学習）の他に市民が何を望んでいるか（市が要求している学習）考えてください。
- ・生涯学習まつりの計画、反省など参加グループの代表者、関係者たちの率直な意見を出し合う場を設けたらどうか。
- ・時代が変化してきているなかで、新しい形の方向を検討してほしい。
- ・自分たちの活動に若い方々が参加できる方法がないか、そんな施策がないものかどうかと想っています。
- ・生涯学習のブームも終わり、高齢化に伴い会員数の減少をいかにするかが難題です。

○教育基本法抜粋

(生涯学習の理念)

第三条 国民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現が図られなければならない。

○社会教育法抜粋

(社会教育の定義)

第二条 この法律において「社会教育」とは、学校教育法（昭和二十二年法律第二十六号）又は就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律（平成十八年法律第七十七号）に基づき、学校の教育課程として行われる教育活動を除き、主として青少年及び成人に対して行われる組織的な教育活動（体育及びレクリエーションの活動を含む。）をいう。

(国及び地方公共団体の任務)

第三条 国及び地方公共団体は、この法律及び他の法令の定めるところにより、社会教育の奨励に必要な施設の設置及び運営、集会の開催、資料の作成、頒布その他の方法により、すべての国民があらゆる機会、あらゆる場所を利用して、自ら實際生活に即する文化的教養を高め得るような環境を醸成するように努めなければならない。

2 国及び地方公共団体は、前項の任務を行うに当っては、国民の学習に対する多様な需要を踏まえ、これに適切に対応するために必要な学習の機会の提供及びその奨励を行うことにより、生涯学習の振興に寄与することとなるよう努めるものとする。